

この天地もその他の物も、みな神のものであるのに、わが物である、わが金ですると思ひ、神にお願ひしないでするから、叱られるのは無理もない。家を建てるにも、神にお願ひして、神のお土地をお借りし、今までのご無礼をおわびして建てれば心配はない。

……「天地は語る」第七十三条……

解説

ある笠岡の資産家が、日柄方位を無視して倉庫を建てたら倒れてしまったので「もう一度！」と、再度建てたら、またまた倒壊してしまった。そこで金光様のことを思い出し、秘かに参拝しお伺ひした時に、教祖様が仰られたのが、この冒頭の御理解であります。

教祖様が「日柄方位は見なくてもよい」と仰られたのは、その前に、先ずは、何事も「神様に願ってから」という前提があります。

教祖様が、当時、日本国中の、全ての人々に絶対視されていた日柄方位の迷妄を打破することができたのは、天地を司る親神様への篤い信仰があつたことでした。私達も、この冒頭のみ教えを真摯に頂くことができれば、自ずと大御蔭を頂くことができますのであります。